

成果報告書

I. 研究概要

氏名	アサドチフ, オクサーナ
所属	タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学
招聘回 (招聘期間)	第 7 回、2012 年 10 月 1 日～2013 年 3 月 31 日
招聘研究テーマ	ウクライナの高等教育機関における日本語教授法のコースデザイン
研究目的	本研究によりウクライナの高等教育機関の日本語学習環境現状と所属機関のコースの問題点を明らかにした上で、大学レベルで主専攻として日本語を勉強している学生対象の日本語教育・日本語教員養成課程のコースデザインの改善を図る。

研究概要：

本研究は、大学レベルで主専攻として日本語を勉強している学生対象の日本語教育・日本語教員養成課程のコースデザインの改善の試みである。筆者は、まず、ウクライナの高等教育機関の日本語学習環境現状と所属機関のコースの問題点を明らかにした上で、JF 日本語教育スタンダードや JLC 日本語スタンダードを参考にし、所属機関の学習者向けの実践日本語コースとアカデミック・ジャパニーズのコースの到達目標を設定した。今後も、シラバスやカリキュラムを作成し、それに沿った教室活動を考え、実験授業を実施し、学習者・教師の意見及び感想を分析した上で、授業の枠組みの設計を検討したい。更に、シラバスを実際にコースに取り入れるために、評価の方法の検討を行い、継続的なコース改善を図っていききたい。

展望：

本研究では、大学生を対象とした日本語教育・日本語教員養成課程のコースデザインの改善を目指し、第 1 段階として、ウクライナの高等教育機関の日本語教育を取り巻く環境、キエフ大における日本語教育の現状、学習者のレディネス、日本語学習環境の問題点や現在の日本語コースの問題点を明らかにした上で、コースデザインの目的を考えた。更に、研究課題となっている日本語教育・日本語教員養成課程のコースデザインの改善の提案を考え、更に、コミュニケーション能力、異文化適応能力の養成とアカデミックな日本語力の養成を目指し、JF スタンダードと JLC スタンダードを参考にし、所属機関の学習者向けの実践日本語コースとアカデミック・ジャパニーズコースの到達目標を設定した。

今後の課題として、運用能力養成のシラバスやカリキュラムを作成し、それに沿った教室活動を考え、実験授業を実施しすることである。なお、作成したコースデザインに関する学習者・教師の意見及び感想の調査を行い、その調査結果を分析した上で、授業の枠組みの設計を検討したい。更に、シラバスを実際にコースに取り入れるために、評価の方法の検討を行い、継続的なコース改善を図っていききたい。